

学校点描

今年も雪が降りだしました。あの異常なほど暑かった夏の日々、熱中症指数を持って駆け回った日々は過ぎ去りました。

《M中学校》

NO.14

R5. 11. 29

担当：校長

第42回全国中学生人権作文コンテストY県大会にて、S・Sさんの「障害と人権」が最優秀賞・山形県人権擁護委員連合会長賞を受賞しました。

11月21日（火）にS警察署から電話がありました。「町内の小中学生が路上で立ち話をしているため、道路を横断するのかわからないから指導をしてほしい」という町民と思える方からの電話相談が入ったという内容でした。すぐに生徒指導主事の山本先生が、昼の放送を使って道路での立ち話と道路横断についての注意喚起の指導を行いました。

家族の中の孤独性

冬季うつ（ウインター・ブルー）という言葉があるように、寒くなるほど、人の気持ちは暗く沈みがちです。主な症状としては、「寝ても寝ても眠い」「食欲が増えて体重が増加する」「強い倦怠感がある」のようです。それでも、生徒は、今年最後の評価テストを終えて、クリスマスや年末、お正月とにぎやかな行事を楽しみにしている時期かもしれません。逆に言うと年末のイベントは、そんな人の沈みがちな心をあげるための貴重なイベントともいえそうです。

年末になると、〇〇大賞とか、〇〇語大賞とか、今年を振り返る賞が発表されるのも恒例です。中には、「こんな賞もあるのか」と今まで聞いたこともなかった賞の存在にも出会います。

文房具のホッチキスを販売しているマックス株式会社は、毎年『心のホッチキス・ストーリー』の募集をしていることをチラシから知りました。募集内容には何気ない生活の中にある、「今の幸せ」「親と子の気持ちがつながるとき」「家族の絆」など、「いつまでも心にとどめておきたい思いや出来事など」と、書かれています。

この数年続いているコロナ禍の中だからこそ、どんな家族の話があるのか興味があって過去の大賞に読みふけていました。

『長男が2歳になった頃、私はシングルマザーの道を選んだ。母一人、子一人。地元での二人暮らし。実家の両親は、私たち親子を自立させる為、同居を拒んだ。息子を育てて行く為に選んだ新しい仕事は、お給料を重視した分とても厳しく、毎日が戦いだっただ。研修中、グループの皆が居残って勉強するなか、一人、定時に帰る不安。まだまだ手がかかり、育児を楽しむ余裕もない。・・・』

たった母と子二人だけの家族の形がここに 있습니다。家族の定義とは何なのでしょう。どの形が正解でどの形が不正解と言えるはずがありません。家庭によって家族の形は変わって当然ですし、全く同じ家族というのはこの世には存在しません。

わたしたちは今、世界に類を見ない高齢化社会に直面しています。過去のような著しい経済成長期とは違う「新しい幸せのモデル」「新しい家族の幸せ」を見つける、そして「本当の幸せとはなんなのか」を考える時期に来ているのでしょう。

家族とは本当に難しい人間関係だと思います。近しい間柄だからこそ、しょっちゅうもつれてしまいます。家族は、いないと不便だが、いたらいたで不便に感じる人が多いものです。家族は“絆”だといいますが、わたしには、なんだかしっくりきません。

なぜならば、家族を構成する人たちにも個があり、孤独があると思っているからです。

『ある日、仕事で失敗し、泣きたい気持ちを抑えて息子に接していた。この子が寝るまでの我慢だ。この子が寝てから思い切り泣いたらいい。寝かしつけるため、布団に入った。目を閉じて寝たふりをする。しばらくして、静かになった息子。そろそろかなと思った時、突然、小さな腕が私を包んだ。「ママ、がんばれ。」こらえていた涙がボロボロと流れ落ちる。私は一人で戦っているわけじゃない。私の隣にはいつも、世界一の味方がいる。弱い自分に喝を入れながら、温かな気持ちで眠りについた。』

(熊本県 30代女性) 2013. 10

やっぱり、親だって子だって、家にいても寂しい孤独感を持つことはあります。そんな時、家族という人が紡ぐさりげない言葉や出来事によって言いようのない安心感に包まれる、それこそが家族の定義です。



肩を寄せ合う二人っきりの家族が紡ぎ出す幸せの形に、心が震えるのはなぜなのでしょう。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。